

1 事業総括

入所実績は年度目標の150人に対し107人であり、退所実績は前年度161人に対し26.1%減の119人であった。目標達成率62.2%、平均在所期間は7.6ヵ月と例年並みであった。

経営面において、入所申込後のキャンセルが43人に上るなど、今年度は定員の確保が困難であった。月末在籍者が定員を下回る月もあった。しかしながら、事務費換算日の各月1日時点の定員の確保を最重要課題とし、12ヵ月平均で100人を達成し、安定的な運営ができた。

利用者支援においては、精神疾患の利用者が半数近くとなっており、入所直後は必ず服薬の事務所管理を実施している。疾患は統合失調症が一番多く、精神科病棟からの直接入所数は29人(入所者全体の27.1%)であった。

精神的に不安定になった者や精神病院入院中の者を短期間受け入れる一時入所事業では、入所前の試験外泊として利用され、12人が利用した。医療観察法の対象者の利用もあり、一人で複数回利用することが多く、利用者実数は4人であり、うち3人(1人は他更生施設入所)が一般入所に結び付いた。

また、入所調整を経ずに福祉事務所と施設とで協議して入所する各区1床ある緊急対応枠(8区を受け持ち)を利用しての入所は、34人であった。

平成28年4月に事業団立として開設した塩崎荘と合同で納涼祭を開催し、436人が参加し大盛況であった。このうち280人が地域の方の参加であり交流を図ることができた。地域交流は、次年度以降も優先事項として取り組みを継続していく。

[利用実績]

(単位：人)

	年度累計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所者数	107	9	4	11	6	12	8	13	8	4	11	9	12
退所者数	119	12	7	11	13	9	3	15	12	8	6	9	14
月末在籍数	平均 99.0	105	102	102	95	98	103	101	97	93	98	98	96
27年度	平均 104.5	105	104	104	104	105	107	101	103	105	103	105	108

[退所理由]

(単位：人)

	自活	居宅移管	入院除籍	他施設移管	任意退所	無断退所	命令退所	等同居	帰郷・親族	勾留除籍	死亡	促進	社会復帰	その他	合計
28年度	2	51	11	9	18	11	0	0	3	2	9	3	3	119	
27年度	5	56	5	11	33	13	3	0	2	3	26	4	4	161	

2 主要目標に対する成果

(1) 専門的支援の実践

精神障害、発達障害等の何らかの障害を持った利用者は増加傾向にあり、社会福祉、精神保健福祉の専門知識を活用し、障害特性を踏まえた、より専門的な支援を実践した。

(2) 退院後の精神障害者への支援の強化

福祉事務所及び病院等の関係機関と連携し、一時入所事業による精神病院入院中の者の試験外泊を積極的に受け入れ、延12人の利用があった。

(3) BCP等に基づく安心・安全な施設運営の推進

7月26日の神奈川県相模原市で発生した障害者施設内で多数の入所者が殺傷されるという痛ましい事件を踏まえ、外部侵入者対応を迅速に行った。夜間、利用者が玄関の自動扉を開け外出したことがあったため、玄関の自動扉に設置されていた鍵をシリンダー付の鍵に交換した。

(4) 塩崎荘、宿泊所、地域住民、福祉事務所等との地域ネットワークの推進

隣接の塩崎荘には食事の提供を行った。合同防災訓練や施設に地域住民を招いての夏祭りなどの行事を共同開催し、安定した協力体制を構築した。

3 運営管理

- ・4月に所長・主査を含め、職員19人のうち8人（7人が更生施設勤務未経験者）の配置転換があった。組織・職場の活性化のためと前向きに捉え、利用者の不利益とならぬよう職場全体が一致団結し、指導会議（月2回）やケース検討会で利用者支援の習得・習熟に努めた結果、大きな事故が発生すること無く、運営できた。（事故報告は万引きによる3件）
- ・ケース検討会を年6回開催した。外部有識者を招き、臨床心理士や保護観察官を講師に迎え、強迫性障害の方への対応や知的障害者の支援、医療観察法などの最新情報等について学んだ。
- ・個室が83床（室）と多く、新塩崎荘限定での入所申込みが多かった。こうした申込みの多くは精神障害を持つ者であるが、公平・公正を期すため、入所時は例外なく多床室（3人部屋）であることを見学時に丁寧に説明し、入所者からの理解を得て、入所後のトラブルの防止に努めた。
- ・朝の掃除当番への不満や廃止の訴えが意見箱への投書等であったが、見学時や利用者懇談会で松下幸之助の松下政経塾や花巻東高校の事例を紹介し、仕事観や人生観のみでなく人間力の形成に役立つものであることを説明し、理解を促し、全員参加で行っている。「自分の住む場所を掃除するのは当たり前だ」と言う利用者もおり、社会マナー・ルール順守の面で更生施設としての役割を果たしている。
- ・20歳～23歳の若年層4人の入所があった。知的障害や精神疾患が重複している場合もあり、目的達成できるよう重点課題として、関係機関各所と連携しながら支援のあり方を検討している。
- ・昨年度から開始した誕生日月の利用者を対象にした誕生日食事会は大変好評であり、「子どもの日以来、祝ってもらったことはない」と涙を流す利用者もいた。
- ・隣に建設されたマンションの入居が始まり、近隣対応の観点からマンション側の居室にカーテンレール（ダブル）を敷設し、レースの防災カーテンを取り付けるなど、マンション側、利用者側双方のプライバシー保護に努めた。

4 保健衛生・環境整備

- ・入浴やシーツ交換など、事業計画どおりの回数を着実に実行した。
- ・民間宿泊所等からの入所者に対しては入所時防虫対策を実施した。
- ・インフルエンザ、ノロウイルス等の流行性感染症の発生は無かった。
- ・緑化推進として、グリーンカーテン（ゴーヤ等）の栽培を行った。

5 施設の社会化（地域交流事業及び施設機能強化推進事業）

- ・福祉事務所向けの施設説明会を塩崎荘・新幸荘と合同で実施した。
- ・地域美化のためクリーンデーを実施した。
- ・塩崎荘と合同で夏祭りを実施し、外部から280人の来場者があった。
- ・社会福祉士の実習生の受け入れを（2校4人）実施した。
- ・落語会を実施し、地域住民に開放した。

6 福祉サービス第三者評価 評価結果

評価機関：特定非営利活動法人 NPO サービス評価機構

実施期間：H28. 7. 1～H29. 1. 31

全体の講評：

特に良いと思う点

- ① ケース検討会を実施し外部講師による新たな視点や専門知識を得て、支援スキルの習熟を図っている
- ② 関係機関（者）とカンファレンスを実施し、利用者の心身の健康管理に努めている
- ③ 一時入所事業を実施し、精神科病棟から更生施設への利用に向けた体験利用の機会として機能している

さらなる改善が望まれる点

- ① 就労に向けた前向きな組織風土の形成が期待される
- ② OA化をさらに推進し、記録の一元化を進め、職員の業務負担の軽減を図ることを期待する
- ③ 利用者の社会性の回復を図るためにもボランティアの拡大と充実を期待する

施設コメント：

利用者アンケートでは、利用者満足度において「大変満足・満足」が35.8%（昨年度61.9%）と26.1%低下した。一方で「不満・やや不満」は6%（昨年度14%）で8%改善された。これは「どちらともいえない」、「無回答」が36%（昨年度21%）と大幅に増えたことが要因と思われる。統一的なアンケートへの協力説明が必要である。結果を真摯に受けとめ、「大変満足・満足」が60%を超えるよう、更なる努力したい。

